

■ 展示改修における基本方針

展示改修における基本方針

指定文化財の展示が可能な公開承認施設である当館の実績をふまえ、展示改修にあたっては、展示資料の良好な保存環境を保持しつつ、来館者に資料本来の魅力を最大漏らさず提供しうる展示環境を整えるために、より積極的な展示運営を可能とする、資料にとって安全で、運営者にとって使い勝手の良い展示室として整備する。

展示ケース改修における基本方針

＜ケースガラスの共通仕様＞

- ケースガラスについては、展示する資料の色の再現性の高い高透過ガラスとし、来館者の鑑賞の妨げとなるガラスへの映り込みを抑えるため、低反射フィルム貼りとする。

＜企画展示室壁付ケース仕様＞

- 展示環境における資料の良好な保存環境の保持には、資料の素材特性に応じた湿度管理が最も重要となる。適切な湿度管理をするためには、展示室全体の大きな空間で管理する方法よりも、より小さな空間である展示ケースで調湿剤を用いて管理する方がよりきめ細かな管理が可能となるため、企画展示室における壁付ケースはエアタイトケースとして整備することを基本とする。

- 展示資料の保存環境は湿度の他に空気質も重要な要素であり、特に有機酸、アンモニアの放散量については、東京文化財研究所が推奨する基準値以下に抑えることが重要となる。そのためケースの内装に使用する建材には有害ガスの放散量の少ない素材を用いる必要がある。

東京文化財研究所推奨値
 有機酸 : 170ppb 以下
 アンモニア : 30ppb 以下

- 資料の保存上有害なガスは、ケースに使用する建材の他、展示資料そのものからも放散されることもあり、展示を運営していく過程で、エアタイトケースに有害ガスが蓄積されていくことが昨今問題視されている。ケース内に蓄積した有害ガスをケース外に放出するためには換気が必要となるため、エアタイトケースを自然循環式ケースとして活用するための切り替え弁を備えることが有効になる。

- エアタイトベースの自然循環ハイブリットケースとして整備することにより、素材が堅牢な資料の展示においては、自然循環式ケースとして使用することで調湿剤の使用を抑えることができ、ランニングコスト的にも優位となる。

- 自然循環式ケースとして使用した場合であっても、よりケース内湿度を安定させるために、ケース背面には断熱材を充填する。

- 企画展示室の新規壁付ケースの各部の寸法（ケース腰高さ、ガラス開口高さ、ケース内奥行）は、既存ケースと同じとする。ケース開閉については、列品作業時、狭いケース内空間において資料を持って移動をする危険を回避するために、ケースガラスは全面開口可能なものとし、開口率 100%を確保する。

展示照明設備改修における基本方針

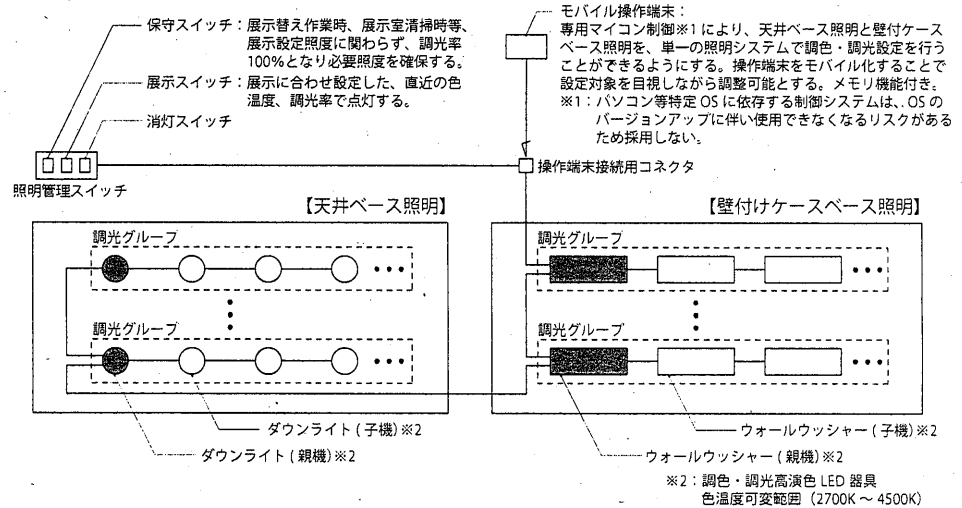
＜展示用照明器具の共通基本仕様＞

- 展示に関わる照明は省エネに配慮した LED を光源とし、展示する資料本来の魅力が十分表現できるように高演色（平均演色評価指数 Ra95 以上）器具とする。
- 照明に用いる LED は、資料の汚損、劣化のリスクを極力抑制するために、損傷係数の低い青色励起白色 LED とし、劣化の恐れのある紫外線カットフィルターを用いなければならない紫色（近紫外）励起白色 LED は採用しない。
- LED 照明器具は、5%～ 100%の間でフリッカーを起こすことなく、スムーズに調光可能なものとする。

＜企画展示室展示照明仕様＞

- 企画展示室では展示企画内容に応じ、様々な形態、材質、色合い等、多種多様な資料の展示が想定され、展示替え頻度も高い。そのため、展示用照明設備においては、共通基本仕様に加え、演出性と使い勝手にも特に配慮して、展示室全体で展示照明システムを構築する必要がある。

○ 企画展示室照明システム概要図



＜スポットライト仕様＞

- 演出用スポットライトは照射対象により、きめ細かな設定が必要となる。そのためスポットライトは器具個別調色・調光可能な LED 器具とする。
- スポットライトは器具個別調色・調光器具を使用するため、ライティングダクトはノンディママー回路とする。